

(令和8年度 医学部 学校推薦型選抜Ⅱ)

受験番号
※大学側で記入します。

誓 約 書

作成日

年 月 日

山梨大学長 殿
山梨県知事 殿

私は、山梨大学医学部医学科学学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）に出願するにあたり、入学を許可された上は、地域枠の趣旨である山梨県内の医師不足解消を目的に、卒業後に山梨県内の指定医療機関への就業義務があることを理解し、下記の事項を遵守することを誓います。

記

- ① 事前に山梨県のホームページで山梨県医師修学資金貸与制度（第二種）を確認し、制度の内容を理解しています。
- ② 入学試験に合格した場合は入学することを確約し、山梨県医師修学資金貸与制度（第二種）を利用するための契約を山梨県と締結します。
- ③ 医師修学資金を返還しても、山梨県内の指定医療機関での就業義務が消えないことを理解しています。また、医師免許取得後、死亡又は重大な心身の故障等により医業に携わることができない場合を除き、結婚、介護、子育て、家業の継承等、多くの者が経験する事情では就業義務が消えないことを理解しています。
- ④ 卒業後2年以内に医師免許を取得し、医師免許取得後15年間のうち9年間は山梨県内の指定医療機関において診療に従事します。
- ⑤ 臨床研修（医師免許取得後最初の2年間）は、必ず山梨県内の研修病院で行います。
- ⑥ 医師免許取得後15年以内（災害・疾病等のやむを得ない理由により診療に従事することができない期間は、15年に算入しない）に専門研修を受ける場合には、必ず山梨県内の病院で行います。
- ⑦ 大学在籍中は、継続して山梨県地域枠等医師キャリア形成卒前支援プランに参加し、医師国家試験合格後、山梨県が作成したキャリア形成プログラムに基づき地域医療に従事します。キャリア形成プログラムを履行する旨の契約を山梨県と締結し、違反した場合は違約金を支払う可能性があることを理解しています。
- ⑧ 上記に違反した場合、出身高等学校に連絡が行く可能性があることを理解しています。

志願者氏名（自筆）

印

保護者氏名（自筆）

印

別紙1

誓 約 書

年 月 日

山 梨 県 知 事 殿

私は、山梨県地域枠による入学者として、山梨県内における医師の確保及び資質の向上という山梨県医師修学資金及び医師研修資金貸与条例（以下「修学資金条例」という。）及び地域枠制度の目的に従い、次の事項を遵守することを誓います。

記

- ① 大学を卒業した日から起算して2年以内に医師免許を取得し、医師免許取得後、貸与期間の2分の5に相当する期間を経過する月までに（6年間貸与を受けた場合、15年を経過する月までに）、必ず山梨県内の病院が実施する臨床研修（専門研修を受ける場合は、必ず山梨県内の病院が実施する臨床研修及び専門研修）を修了します。
- ② 医師免許取得後、貸与期間の2分の5に相当する期間を経過する月までに貸与期間の2分の3に相当する期間以上（6年間貸与を受けた場合、15年を経過する月までに9年間以上）、知事が指定する山梨県内の特定公立病院等（以下「返還免除医療機関」という。）において医師の業務に従事します。
- ③ 医師修学資金及びその利息（以下「修学資金等」という。）の返還の債務を有している間は、返還免除医療機関以外で医師の業務に従事する（従事しようとする）場合、自らが地域枠制度の入学者であることについて、従事する医療機関に対し、申告します。
- ④ 修学資金等の返還の債務を有している間は、返還免除医療機関以外で医師の業務に従事した場合、修学資金条例及び地域枠制度の目的を達成するため、私が地域枠制度の入学者であることについて、山梨県から従事する医療機関に対し通知する場合があることに同意します。
- ⑤ 大学在籍中は、継続して山梨県地域枠等医師キャリア形成卒前支援プランに参加し、**医師免許取得後、キャリア形成プログラムの適用を受けます。**医師国家試験合格後、「山梨県地域枠等医師キャリア形成プログラム」に基づく契約を締結し、地域枠を離脱した際には違約金を支払う**可能性がある**ことについて同意します。

貸与決定番号：

氏名：

印

令和8年度

入学者選抜要項

教育学部・医学部・工学部・生命環境学部



目次

1. 入学者受入方針（アドミッションポリシー）	1
2. 入学者選抜日程	16
3. 募集人員（入学定員）	18
4. 出願手続	19
5. 選抜方法の概要	22
6. 一般選抜【教育学部・医学部・工学部・生命環境学部】	26
7. 学校推薦型選抜Ⅰ【教育学部・医学部・工学部・生命環境学部】	42
8. 学校推薦型選抜Ⅱ【医学部】	52
9. 総合型選抜Ⅰ【工学部】	55
10. 総合型選抜Ⅱ【工学部・生命環境学部】	57
11. 私費外国人留学生入試【工学部・生命環境学部】	66
12. 甲府キャンパス案内図	69
13. 医学部キャンパス案内図	70

入学者選抜要項について（募集要項ではありません）

入学者選抜要項は各入学者選抜の概要を記載した資料です。出願の際は各募集要項を必ず確認してください。なお、本学ではWeb出願を導入しており、募集要項冊子（紙の願書）は配布していません。ホームページ（<https://www.yamanashi.ac.jp/admission/291>）から募集要項（PDF）をダウンロードしてください。

入学試験における感染症対応

入学試験当日において、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、麻疹、水痘等）に罹患して治癒していない場合は、他の受験者や監督者等への感染のおそれがあるため受験できません。なお、受験できない場合の迫・再試験や別室受験等の特別措置及び入学検定料の返還は行いませんので、万全の態勢で試験当日を迎えられるよう、体調管理には十分注意してください。

なお、この取扱いを変更する場合は、本学ホームページ（https://www.yamanashi.ac.jp/examination_list）にてお知らせします。

入学試験に過去問題を使用することに関して

- （1）本学の入学者受入方針（アドミッションポリシー）を実現するため、必要と認める範囲で「入試過去問題活用宣言」に参加している大学、「提供大学」の入試過去問題を使用して出題することがあります。
- （2）入試過去問題を使用する際は、そのまま使用することも、一部改変することもあります。また、使用した過去問題については、入試終了後、受験者に分かるような形で公表します。
- （3）「入試過去問題活用宣言」についての詳細及び参加大学の一覧については、次のURLにて公表しています。<https://www.nyushikakomon.jp>

ための申告書」、「活動実績報告書」ならびに「活動実績報告書証明書類」（実技検査で体育実技を選択する志願者のみ）の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等を評価します。大学入学共通テストは7教科、実技検査は音楽実技、美術実技、体育実技の中から志願者が選んだいずれか一つを課し、基礎的な知識・技能を評価します。面接では、コースの教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。

一般選抜（後期）では、大学入学共通テストと実技検査、面接を課します。「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」、「活動実績報告書」ならびに「活動実績報告書証明書類」（実技検査で体育実技を選択する志願者のみ）の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等を評価します。大学入学共通テストは、情報に加え、3～4教科の選択とし、特に重点的に学習した教科の基礎学力を評価します。実技検査は、音楽実技、美術実技、体育実技の中から志願者が選んだいずれか一つを課し、基礎的な知識・技能を評価します。面接では、コースの教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。

学校推薦型選抜Ⅰ（教科別推薦入試）では、実技検査と面接を志望する系（音楽教育系・美術教育系・保健体育系）ごとに課します。「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」、「学校長推薦書」、「活動実績報告書」ならびに「活動実績報告書証明書類」（保健体育系の志願者のみ）の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等を評価します。実技検査は、志望する系に応じて音楽実技、美術実技、体育実技のいずれかを課し、志望する系での学習の前提となる知識・技能を評価します。特に保健体育系では、高等学校における競技経験を学校教育に活かせる資質・能力を評価します。面接では、志望する系の教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。

やまなし小学校教育コース

育成目標と求める能力・人物像

本コースでは、山梨県教育指針や教育事情を広い視野をもって学び、現代的教育課題の解決に向けて主体的に取り組み、実践的な教育力とグローバル化に対応した能力を兼ね備えた山梨県の小学校教員の養成を目指しています。そのため、小学校教諭一種免許状に加え、中学校教諭二種免許状、もしくは特別支援学校教諭一種免許状を取得します。カリキュラムの特徴として、全学共通教育科目（一般教養科目）や学部専門科目を学ぶことに加えて、1年次では附属小学校の授業観察など教育現場の現実を体験的に学びます。2年次からは学校教育分野におけるICT活用などについて学び、さらに3年次からは小学校教育の現代的教育課題やそれを読み解く理論や方法に関する科目を通じて学びを深めます。このことから、児童の心身の発達やそれを支える山梨県の教育に強い関心があり、山梨県の小学校教員を目指す学生を求めています。

試験区分別の入学者選抜の基本方針

学校推薦型選抜Ⅰ（山梨県の小学校教員志望者推薦入試）は、山梨県の小学校教員を志望する受験生を対象に、学校教育課程で募集人員を定めて実施するものです。本選抜では、小論文と面接を課します。「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」、「学校長推薦書」の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、山梨県の小学校教員を志望する意思と展望が明確であるか等を評価します。小論文では、小学校教育や児童の発達過程に関わる論題を出題し、「やまなし小学校教育コース」での学習の前提となる思考力・判断力・表現力を総合的に評価します。面接では、山梨県の教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。

(2) 医学部

理念・目的

深い人間愛と広い視野を持ち、医の倫理を身に付け、科学的根拠に基づいた医学的知識・技術を備え、地域医療及び国際医療に貢献できる医療人及び研究者を養成する。

育成目標

病める人の苦痛を自らの苦痛と感ずることができ、生涯にわたって医学的知識、技術の修得に努め、地域社会・国際社会の保健医療・福祉に貢献する人材及び疾患の原因解明や治療法の開発に寄与できる研究者の養成を目指しています。

求める資質・能力、人物像

医学部では、次のような資質と能力を持つ人を求めています。

- 将来、患者一人一人に最良の医療を提供するために、努力を惜しまない人
- 健康問題に興味があり、地域医療や国際医療に貢献したいと考えている人
- 疾患の原因を解明し、治療法を開発したいと考えている人
- 深い人間愛と高い倫理観、広い視野を持ちコミュニケーション能力が高い人

医学科

育成目標と求める能力・人物像

医学科では、幅広い知識と高度な技術の獲得とともに、人格の涵養にも重点を置いたカリキュラムにより、次世代の医療を担う優れた臨床医及び医学研究者の養成を目指しています。医学・医療に将来、携わることへの強い意志と深い関心を持ち、総合的理解力、論理的思考力、問題解決能力を備え、他者とのコミュニケーション及び自己表現に優れるとともに、自己啓発のために生涯にわたって学ぶことを継続する意欲を持つ人を求めています。

入学前に学習しておくことが期待される内容

医学科で幅広い医学的知識を学習するために必要な基礎学力を身につけておいてください。特に、大学受験の理科目として物理学、化学を選択した学生であっても生物学の基礎を修得していることを期待しています。外国語の修得には時間がかかりますので、入学前から常に英語力の向上を目指してください。また、多彩な人との豊かな人間関係を築くこと、様々な組織の中でチームワークによる活動の経験を持つことによって、医療人に求められる高い倫理観、信頼される人間性、広い社会的視野を涵養することを心掛けてください。

試験区分別の入学者選抜の基本方針

一般選抜（後期日程） 本選抜では、出願書類に加え第1段階選抜合格者に面接を課します。これにより情操、創造力や適応力など人間性の観点からの選考を行います。さらに「調査書」など各教科の学習記録により、医学を学ぶに足る基礎学力が定着しているかどうかを評価します。これらの選考により本学の理念・目的に合致し、将来人間性豊かな医師または独創的な医学研究者に成長しうる学生であるかどうかを判断します。最終選抜は以上の結果に加え、大学入学共通テストの成績ならびに個別学力検査から総合的にを行います。なお、第1段階選抜は選抜方法・合否判定基準に基づき実施します。

学校推薦型選抜Ⅱ 本選抜の受験資格は、将来本学を含む山梨県の医療に貢献することを決意し、学校長が責任を持って推薦した者のみに与えられます。また第1段階選抜合格者に面接を課します。これにより情操、創造力や適応力など人間性の観点からの選考を行います。さらに、「調査書」など各教科の学習記録により、医学を学ぶに足る基礎学力が定着しているかどうかを評価します。出願書類のうち「多面的・総合的な評価のための申告書」は、アドミッションポリシーの理解度、大学で学びたいこと具体性、将来展望の明確性などを測る目的で主に面接時の資料として活用します。「学校長推薦書」からは学力のみならず、高校生活での主体的活動の有無や積極性など人間性の豊かさをも評価します。これらの選考により本学の理念・目的に合致し、将来人間性豊かな医師または独創的な医学研究者に成長しうる学生であるかどうかを判断します。最終選抜は以上の結果に加え、大学入学共通テストの成績から総合的にを行います。なお第1段階選抜は選抜方法・合否判定基準に基づき実施します。

看護学科

育成目標と求める能力・人物像

看護学科は、生命の尊厳を基本とし、看護の倫理性を身につけ、深い人間愛と広い視野を持つ看護専門職及び看護学研究者の育成を目的としています。そのため看護学科では、人間への深い関心と優れたコミュニケーション能力を備え、多様な健康問題を科学的に判断し解決できる能力を有し、保健・医療・福祉に貢献するために継続的に努力できる人を求めています。

2. 入学者選抜日程

一般選抜

日程	実施学部	募集要項 公開予定 時期	大学入学 共通テスト	出願期間	第1段階 選抜発表	選抜期日	合格者発表	入学手続
前期日程	・教育学部 ・医学部 【看護学科】 ・工学部 ・生命環境学部	2025 年 10 月下旬	2026 年 1/17(土) ・ 1/18(日)	2026 年 1/26(月) } 2/4(水)		2026 年 2/25(水)	2026 年 3/6(金)	2026 年 3/7(土) } 3/15(日)
後期日程	・教育学部 ・工学部 ・生命環境学部					2026 年 3/12(木)	2026 年 3/20(金)	2026 年 3/21(土) } 3/27(金)
	・医学部 【医学科】				2026 年 2/13 (金)	2026 年 3/12(木) 3/13(金) 両 日		
	・医学部 【看護学科】					2026 年 3/14(土)		

学校推薦型選抜

選抜区分	実施学部	募集要項 公開予定 時期	大学入学 共通テスト	出願期間	第1段階 選抜発表	選抜期日	合格者発表	入学手続
I	・教育学部 ・医学部 【看護学科】 ・工学部 ・生命環境学部 【生命工学科】	2025 年 8 月上旬		2025 年 11/4(火) } 11/11(火)		2025 年 11/22(土)	2025 年 12/5(金)	2026 年 2/12(木) } 2/18(水)
II	・医学部 【医学科】		2026 年 1/17(土) ・ 1/18(日)	2025 年 12/11(木) } 12/18(木)	2026 年 2/6 (金)	2026 年 2/9(月)	2026 年 2/11(水)	

総合型選抜

選 抜 区 分	実施学部	募集要項 公開予定 時期	大学入学 共通 テスト	出願期間	第1段階 選抜期日	第1段階 選抜発表	選抜期日	合格者 発表	入学手続
I	・工学部	2025 年 8 月上旬		2025 年 9/26(金) } 10/3(金)			2025 年 10/18(土)	2025 年 11/4(火)	2026 年 2/12(木) } 2/18(水)
II	・工学部		2026 年 1/17(土)	2025 年 12/11(木) } 12/18(木)			書類審査の ため 来学不要	2026 年 2/10(火)	
	・生命環境学部 【地域食物科学科】 【環境科学科】 【地域社会システム学科】		1/18(日)	2025 年 11/4(火) } 11/11(火)	2025 年 11/22(土)	2025 年 12/5(金)			

私費外国人留学生試験

実施学部	募集要項 公開予定時期	出願期間	選抜期日	合格者発表	入学手続
・工学部	2025 年 12 月上旬	2025 年 12/19(金)	書類審査のため 来学不要	2026 年 2/10(火)	2026 年 2/12(木)
・生命環境学部		12/25(木)	2026 年 1/30(金)		2/18(水)

*全体に関する留意事項

- 合格者の入学辞退等により入学定員に欠員が生じた場合は、追加合格又は欠員補充第2次募集を行うことがあります。(期間：3/28(土)～3/31(火))
- 入学式は2026年4月上旬を予定しております。

5. 選抜方法の概要

(1) 一般選抜

学部	課程・学科・コース・枠	共通 テスト	個別 学力検査	実 技 検 査 等				2 段 階 選 抜	備 考
				実 技	小 論 文	面 接	そ の 他		
【前期日程】									
教育学部	学校教育課程	幼児教育コース	○	○	-	-	○	-	-
		障害児教育コース	○	○	-	-	○	-	-
		言語教育コース	○	○	-	-	○	-	-
		生活社会教育コース	○	○	-	-	○	-	-
		科学教育コース	○	○	-	-	○	-	-
		芸術身体教育コース	○	-	○	-	○	-	-
医学部	看護学科	○	-	-	○	○	-	-	
工学部	工学科	クリーンエネルギー化学コース	○	○	-	-	-	-	-
		応用化学コース	○	○	-	-	-	-	-
		土木環境工学コース	○	○	-	-	-	-	-
		コンピュータ理工学コース	○	○	-	-	-	-	-
		機械工学コース	○	○	-	-	-	-	-
		メカトロニクスコース	○	○	-	-	-	-	-
		電気電子工学コース	○	○	-	-	-	-	-
総合工学枠	○	○	-	-	-	-	-		
生命環境学部	生命工学科	○	○	-	-	-	-	-	
	地域食物科学科	○	○	-	-	-	-	-	
	ワイン科学特別コース	○	○	-	-	-	-	-	
	環境科学科	○	○	-	-	-	-	-	
	地域社会システム学科	○	○	-	-	-	-	-	
観光政策科学特別コース	○	○	-	-	-	-	-		
【後期日程】									
教育学部	学校教育課程	幼児教育コース	○	-	-	-	○	-	-
		障害児教育コース	○	-	-	-	○	-	-
		言語教育コース	○	-	-	-	○	-	-
		生活社会教育コース	○	-	-	-	○	-	-
		科学教育コース	○	-	-	-	○	-	-
		芸術身体教育コース	○	-	○	-	○	-	-
医学部	医学科	○	○	-	-	○	-	○* (約10倍)	
	看護学科	○	-	-	-	○	-	-	
工学部	工学科	総合工学枠	○	-	-	-	○	-	
生命環境学部	生命工学科	○	-	-	-	○	-	-	
	地域食物科学科	○	-	-	-	○	-	-	
	環境科学科	○	-	-	-	○	-	-	
	地域社会システム学科	○	-	-	-	○	-	-	
	観光政策科学特別コース	○	-	-	-	○	-	-	

* 医学部医学科後期日程では、志願者が募集人員の約10倍を超えた場合に第1段階選抜を実施します。

(2) 学校推薦型選抜・総合型選抜

学部	課程・学科・コース・系	共通 テスト	個別 学力検査	実 技 検 査 等				2 段階 選 抜	備 考		
				実 技	小 論 文	面 接	そ の 他				
学校推薦型選抜Ⅰ											
教育学部	学校教育課程	幼児教育コース	-	-	-	○	○	-	-	* 7	
		障害児教育コース	-	-	-	○	○	-	-		
		言語教育コース	国語教育系	-	-	-	○	○	-		-
			英語教育系	-	-	-	○	○	-		-
		生活社会教育コース	社会科教育系	-	-	-	○	○	-		-
			家政教育系	-	-	-	○	○	-		-
		科学教育コース	数学教育系	-	-	-	○	○	-		-
			理科教育系	-	-	-	○	○	-		-
		芸術身体教育コース	技術教育系	-	-	-	○*1	○*1	口頭試問*1		-
			音楽教育系	-	-	○	-	○	-		-
	美術教育系	-	-	○	-	○	-	-			
	保健体育系	-	-	○*2	-	○	-	-			
	やまなし小学校教育コース	-	-	-	○	○	-	-			
医学部	看護学科	-	-	-	○	○	-	-			
工学部	工学科	クリーンエネルギー化学コース	-	-	-	○	○*3	-	-		
		応用化学コース	-	-	-	○	○*3	-	-		
		土木環境工学コース	-	-	-	○	○*3	-	-		
		コンピュータ理工学コース	-	-	-	○	○*3	-	-		
		機械工学コース	-	-	-	○	○*3	-	-		
		メカトロニクスコース	-	-	-	○	○*3	-	-		
		電気電子工学コース	-	-	-	○	○*3	-	-		
生命環境学部	生命工学科	-	-	-	-	○ (口頭試問を含む)	-	-			
学校推薦型選抜Ⅱ											
医学部	医学科	○	-	-	-	○	-	○*6 (約1.2倍)	* 7		
総合型選抜Ⅰ											
工学部	工学科	クリーンエネルギー化学コース	-	-	-	-	○ (口頭試問を含む)	○*4	-	* 7	
		応用化学コース	-	-	-	-	○ (口頭試問を含む)	○*4	-		
		土木環境工学コース	-	-	-	-	○ (口頭試問を含む)	○*5	-		
		コンピュータ理工学コース	-	-	-	-	○ (口頭試問を含む)	○*5	-		
		機械工学コース	-	-	-	-	○ (口頭試問を含む)	○*5	-		
		メカトロニクスコース	-	-	-	-	○ (口頭試問を含む)	○*5	-		
		電気電子工学コース	-	-	-	-	○ (口頭試問を含む)	○*5	-		

学部	学科・コース	共通 テスト	個別 学力検査	実 技 検 査 等				2 段 階 選 抜	備 考	
				実 技	小 論 文	面 接	そ の 他			
総合型選抜Ⅱ										
工 学 部	工 学 科	クリーンエネルギー化学 コース	○	-	-	-	-	-	-	* 7
		応 用 化 学 コース	○	-	-	-	-	-	-	
		土木環境工学 コース	○	-	-	-	-	-	-	
		コンピュータ理工学 コース	○	-	-	-	-	-	-	
		機 械 工 学 コース	○	-	-	-	-	-	-	
		メカトロニクス コース	○	-	-	-	-	-	-	
		電気電子工学 コース	○	-	-	-	-	-	-	
生命環境学部	地 域 食 物 科 学 科		○	-	-	-	○ (口頭試問を含む)	-	○	
	環 境 科 学 科		○	-	-	-	○ (口頭試問を含む)	-	○	
	地域社会システム学科		○	-	-	-	○ (口頭試問を含む)	-	○	
	観光政策科学特別コース		○	-	-	-	○ (口頭試問を含む)	-	○	

- * 1 技術教育系は、I(A)教科別推薦入試では面接と小論文、I(B)専門・総合学科推薦入試では口頭試問を課します。
 * 2 保健体育系は、活動実績報告書ならびに活動実績報告書証明書類で実技検査を行います。
 * 3 女子枠の志願者には、提出された「志望理由書」に基づく面接も行います。
 * 4 その他では、簡単な化学実験・実習の操作を課し、それに関する基礎的な知識や観察力・表現力を問う面接を行います。
 * 5 その他では、提示する物理に関する資料に基づき、受験者の観察力・考察力・表現力を問う面接を行います。
 * 6 医学部医学科学学校推薦型選抜Ⅱでは、志願者が募集人員の約1.2倍を超えた場合に第1段階選抜を実施します。
 * 7 欠員が生じた場合、一般選抜で補充します。

選抜区分	教育学部 学校教育課程 科学教育コース（前期日程・後期日程）																			
共通テストの教科グループ	国	地歴				公民			数①	数②	理				外				情	
科目名	国	日	世	地理	地歴公	倫	政経	数ⅠA	数ⅡBC	理基	物	化	生	地	英	独	仏	中	韓	情Ⅰ
科目数	1	1						1	1	2				1				1		
注意事項	【地歴、公民】 1科目のところ2科目受験した場合は「第1解答科目」をその成績とします。 【外国語】 英語を選択した場合は、リーディング (50)+リスニング (50)=計 (100) を満点とした得点に換算します。																			

選抜区分	医学部 看護学科（前期日程・後期日程）																			
共通テストの教科グループ	国	地歴			公民			数①	数②	理				外				情		
科目名	国	日	世	地理	地歴公	倫	政経	数ⅠA	数ⅡBC	理基	物	化	生	地	英					情Ⅰ
科目数	1	1					1	1	1					1				1		
注意事項	【地歴、公民】 1科目のところ2科目受験した場合は「第1解答科目」をその成績とします。 【理 科】 1科目のところ2科目受験した場合は「第1解答科目」をその成績とします。 【外 国 語】 英語はリーディング(100)+リスニング(100)=計(200)を満点とした得点に換算します。																			

選抜区分	医学部 医学科（後期日程）																		
共通テストの教科グループ	国	地歴				公民		数①		数②	理				外				情
科目名	国	日	世	地理	倫		政経	数Ⅰ A		数Ⅱ B C	物 化 生				英	情Ⅰ			
科目数	1	1						1	1	2				1				1	
注意事項	【地歴、公民】 1科目のところ2科目受験した場合は「第1解答科目」をその成績とします。指定する科目を「第1解答科目」として選択していない場合は、出願無資格者となります。 【外国語】 英語はリーディング(100)+リスニング(100)=計(200)を満点とした得点に換算します。																		

【後期日程】

教 育 学 部		大学入学共通テスト及び面接等の各成績、「調査書」、「多面的・総合的な評価のための申告書」、「活動実績報告書」ならびに「活動実績報告書証明書類」（実技検査で体育実技を選択する志願者のみ）の記載内容を総合して判定します。なお、合格ライン上に総得点が同点の者がいる場合は、面接の得点が高い者を上位とします。
医 学 部	医 学 科	最終選抜は、大学入学共通テスト、個別学力検査、面接、「調査書」を総合して判定します。ただし、面接の評価が判定基準を満たさない場合は、大学入学共通テストの成績と個別学力検査等の総得点が合格点に達していても、不合格になります。総得点が同点の場合は、①面接得点の高い者、②個別学力検査の数学・理科・外国語（英語）の合計得点が高い者、③大学入学共通テストの国語得点が高い者の順に上位者とします。なお、志願者が募集人員の約10倍を超えた場合は、大学入学共通テストの成績と「調査書」の内容により第1段階選抜を行い、募集人員の約10倍を合格者とします。ただし、志願者が募集人員の10倍を超えない場合は、第1段階選抜は行いません。
	看護学科	大学入学共通テスト、面接、「調査書」を総合して判定します。ただし、面接の評価が合格判定基準を満たさない場合は不合格になります。総得点が同点の場合の取扱いについては、入試の適正な実施に支障が生じかねないという観点から非公表とします。
工 学 部		大学入学共通テスト、面接、「調査書」を総合して判定します。ただし、面接の評価が合格判定基準を満たさない場合は不合格になります。総得点が同点の場合は同順位とし、合格ライン上の同点者全員を合格とします。
生 命 環 境 学 部		大学入学共通テスト、面接、「調査書」を総合して判定します。ただし、面接の評価が合格判定基準を満たさない場合及び総得点が著しく低い場合は不合格になります。総得点が同点の場合の取扱いについては、入試の適正な実施に支障が生じかねないという観点から非公表とします。

【後期日程】

学科・コース・枠	検 査	検査内容、出題範囲、評価基準等
教育 幼児教育コース 言語教育コース 生活社会教育コース 科学教育コース	面 接 (実施形態 非公表)	・コースの教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性等を総合的に評価します。 ・面接の中で、「多面的・総合的な評価のための申告書」の記載内容についての説明を求めることがあります。
教育 障害児教育コース	面 接 (実施形態 非公表)	・自己表現力や他者理解力、およびコースの教育活動や研究活動への意欲などを総合的に評価します。 ・面接の中で、「多面的・総合的な評価のための申告書」の記載内容についての説明を求めることがあります。
教育 芸術身体教育コース	実 技	・音楽実技、美術実技、体育実技から出願時に1つを選択 ・選択した分野の基礎的な知識・技能を評価します。 (詳細は「実技検査の内容・注意事項」(39ページ)を参照)
	面 接 (実施形態 非公表)	・コースの教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性等を総合的に評価します。 ・面接の中で、「多面的・総合的な評価のための申告書」の記載内容についての説明を求めることがあります。
医学 医 学 科	数 学	・数Ⅰ、数A、数Ⅱ、数B、数Ⅲ、数C ・数Ⅰ、数A、数Ⅱ、数Ⅲは全範囲を出題範囲とします。 ・数Bは『数列』及び『統計的な推測』を出題範囲とします。 ・数Cは『ベクトル』及び『平面上の曲線と複素数平面』を出題範囲とします。 ・単に高等学校で学んだ知識や計算力をみるのではなく、観察力、理解力、思考力、理論的構想力、表現力等もみます。
	理 科 (3科目群から 2科目群選択)	・物基・物、化基・化、生基・生から出願時に2科目群選択 ・物基・物、化基・化、生基・生は全範囲を出題範囲とします。 ・単に高等学校で学んだ知識や計算力をみるのではなく、観察力、理解力、思考力、理論的構想力、表現力等もみます。
	外 国 語	・英Ⅰ、英Ⅱ、英Ⅲ、論表Ⅰ、論表Ⅱ、論表Ⅲ
	面 接 (集団面接・個人面接)	・集団面接を行い、面接員が必要と判断した場合は個人面接も行います。 ・人間性豊かな医師及び創造性に富んだ医学研究者となるにふさわしい情操、創造性、適応性等を総合的に評価します。
医学 看 護 学 科	面 接 (個人面接 2回)	・人間性豊かな看護職及び創造性に富んだ看護学研究者となるにふさわしい情操、創造性、適応性等を総合的に評価します。また、面接は個人面接を2回行います。
工学 工学科 総合工学枠	面 接 (実施形態 非公表)	・工学及び社会的課題に関する関心の高さ、学ぶ意欲、応答の論理性や、表現の的確さなどのコミュニケーション能力、チャレンジ精神等を総合的に評価します。
生命 生命工学科	面 接 (実施形態 非公表)	・生物や化学への興味の強さ、目的意識や問題解決能力、論理性、試問に対する応答や表現の明確さ等を総合的に評価します。
生命 地域食物科学科	面 接 (実施形態 非公表)	・農業や食品産業への興味の強さ、目的意識、論理性、適性等を総合的に評価します。
生命 環境科学科	面 接 (実施形態 非公表)	・環境と人間社会の関係を総合的に学ぶための目的意識、適性、基礎知識、応答の的確性、論理性、表現力を総合的に評価します。
生命 地域社会システム学科 (観光政策科学特別コースを含む)	面 接 (実施形態 非公表)	・志望動機、目的意識、応答の的確性、論理性、表現力を総合的に評価します。

【後期日程】

学科・コース・枠	区 分	国	地歴	公民	数	理	外	情	実	小	総問	面	計	合計
教育 幼 児 教育コース	大学入学共通テスト	(200)	(100)	(100)	(200)	(200)	(200)	100	-	-	-	-	700	1,100
	個別学力検査等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	400	400	
教育 障 害 児 教育コース	大学入学共通テスト	(200)	(100)	(100)	(200)	(200)	(200)	100	-	-	-	-	700	1,100
	個別学力検査等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	400	400	
教育 言 語 教育コース	大学入学共通テスト	200	200	-	-	200	100	-	-	-	-	-	700	1,000
	個別学力検査等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	300	300	
教育 生活社会教育コース	大学入学共通テスト	(200)	(200) (100)	(200)	(100) (200)	(200)	100	-	-	-	-	-	700	950
	個別学力検査等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	250	250	
教育 科 学 教育コース	大学入学共通テスト	100	100	300	300	100	100	-	-	-	-	-	1,000	1,300
	個別学力検査等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	300	300	
教育 芸術身体教育コース	大学入学共通テスト	(200)	(100)	(100)	(200)	(200)	(200)	100	-	-	-	-	700	1,500
	個別学力検査等	-	-	-	-	-	-	500	-	-	-	300	800	
医学 医 学 科	大学入学共通テスト	一次	200	100	200	200	200	100	-	-	-	-	1,000	3,300
	テ ス ト	最終	200	100	200	200	200	100	-	-	-	-	1,000	
	個別学力検査等	-	-	-	600	1,000	600	-	-	-	-	100	2,300	
医学 看 護 学 科	大学入学共通テスト	200	100	200	100	200	100	-	-	-	-	-	900	1,300
	個別学力検査等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	400	400	
工学 総 合 工 学 枠	大学入学共通テスト	250	100	300	200	150	100	-	-	-	-	-	1,100	1,100
	個別学力検査等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	適否	-	
生命 生 命 工 学 科	大学入学共通テスト	-	-	-	400	300	100	100	-	-	-	-	900	900
	個別学力検査等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	適否	-	
生命 地 域 食 物 科 学 科	大学入学共通テスト	100	50	300	300	200	50	-	-	-	-	-	1,000	1,000
	個別学力検査等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	適否	-	
生命 環 境 科 学 科	大学入学共通テスト	200	100	200	200	200	100	-	-	-	-	-	1,000	1,000
	個別学力検査等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	適否	-	
生命 地域社会システム学科 (観光政策科学特別コースを含む)	大学入学共通テスト	200	(100)	(100)	200	(100) (200)	200	50	-	-	-	-	850	850
	個別学力検査等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	適否	-	

8. 学校推薦型選抜Ⅱ【医学部】

(1) 出願資格

国公立大学の学校推薦型選抜（大学入学共通テストを課す・課さないを問わず）へ出願することができるのは、1つの大学・学部のみです。

次の各号のすべてに該当する方

- 1校から推薦できる人数に制限はありません。

- (1) 2024年度中又は2025年度中に山梨県内の高等学校（特別支援学校の高等部を含む）を卒業した方又は卒業見込みの方
- (2) 令和8年度大学入学共通テストのうち、本学が指定する教科・科目を受験する方*
- (3) 高等学校における「調査書」の学習成績概評が「A」である方
- (4) 医師免許取得後、15年の期間内で9年間（初期臨床研修及び専門研修期間を含む）、キャリア形成プログラムに基づき、山梨県内の医療機関において診療に従事することを確約できる方
- (5) 山梨県医師修学資金貸与制度第二種の利用を確約できる方
- (6) 合格した場合は、入学することを確約できる方

* 大学入学共通テスト 本学が指定する教科・科目

令和8年度入学者選抜における大学入学共通テストの成績は、令和8年度大学入学共通テストの成績のみ利用します。各科目の配点については、54ページを参照してください。

- 英語リスニング免除者については、英語リーディングの得点を英語リスニングの得点とみなして利用します。

選抜区分	医学部 医学科（学校推薦型選抜Ⅱ）														
共通テストの教科グループ	国	地歴			公民		数①	数②	理			外			情
科目名	国	日	世	地理	倫	政経	数Ⅰ A	数Ⅱ B C	物	化	生	英			情Ⅰ
科目数	1	1					1	1	2			1			1
注意事項	【地歴、公民】 1科目のところ2科目受験した場合は「第1解答科目」をその成績とします。指定する科目を「第1解答科目」として選択していない場合は、出願無資格者となります。 【外国語】 英語は、リーディング(100)+リスニング(100)=計(200)を満点とした得点に換算します。														

(2) 選抜方法・合否判定基準

2段階選抜により合格者を決定します。

① 第1段階選抜

志願者が募集人員の約1.2倍を超えた場合に実施し、大学入学共通テストの成績、「調査書」、「多面的・総合的な評価のための申告書」、「学校長推薦書」を総合して判定します。

② 最終選抜

第1段階選抜の合格者について、大学入学共通テストの成績、面接、「調査書」、「多面的・総合的な評価のための申告書」、「学校長推薦書」を総合して判定します。評価の基準及び同点者の取扱いについては、入試の適正な実施に支障が生じかねないという観点から非公表とします。

(3) 選抜期日・場所（最終選抜）

期日：2026年2月9日（月）

場所：山梨大学医学部キャンパス（山梨県中央市下河東1110）

(4) 検査内容（最終選抜）

学 科	検 査	検査内容、評価基準等
医 学 科	面 接	人間性豊かな医師及び創造性に富んだ医学研究者となるにふさわしい情操・創造性・適応性等を総合的に判定します。また、将来山梨県内で診療に従事する理由・意欲等もみます。

(5) 配 点

学 科	選抜段階	大学入学共通テスト						
		国	地歴	公民	数	理	外	情 計
医 学 科	1次	200	100		200	200	200	100 1,000
	最終	200	100		200	200	200	100 1,000

● 面接、「調査書」、「多面的・総合的な評価のための申告書」、「学校長推薦書」の配点については非公表とします。

令和8年度山梨大学入学者選抜試験実施結果（まとめ）

募 集 区 分			募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
教育学部	学校教育課程	幼児教育コース	7	36	5.1	29	8	3.6	8
		障害児教育コース	18	72	4.0	47	20	2.4	19
		言語教育コース	13	116	8.9	61	15	4.1	13
		生活社会教育コース	14	42	3.0	27	15	1.8	14
		科学教育コース	22	84	3.8	60	23	2.6	23
		芸術身体教育コース	16	82	5.1	56	19	2.9	18
		やまなし小学校教育コース	20	35	1.8	35	20	1.8	20
	小 計		110	467	4.2	315	120	2.6	115
医学部	医学科		125	1,401	11.2	276	146	1.9	125
	看護学科		60	221	3.7	147	69	2.1	60
	小 計		185	1,622	8.8	423	215	2.0	185
工学部	工学科	クリーンエネルギー化学コース	33	74	2.2	69	37	1.9	35
		応用化学コース	33	85	2.6	81	38	2.1	35
		土木環境工学コース	46	124	2.7	123	56	2.2	52
		コンピュータ理工学コース	75	179	2.4	172	87	2.0	83
		機械工学コース	48	148	3.1	143	58	2.5	52
		メカトロニクスコース	45	91	2.0	88	52	1.7	46
		電気電子工学コース	45	123	2.7	115	55	2.1	51
		総合工学枠	40	205	5.1	90	49	1.8	40
	小 計		365	1,029	2.8	881	432	2.0	394
生命環境学部	生命工学科		50	151	3.0	105	60	1.8	50
	地域食物科学科		37	200	5.4	142	44	3.2	37
	環境科学科		30	85	2.8	52	35	1.5	31
	地域社会システム学科		48	250	5.2	178	57	3.1	47
	小 計		165	686	4.2	477	196	2.4	165
合 計			825	3,804	4.6	2,096	963	2.2	859

※工学部機械工学コース及びメカトロニクスコースの入学者は、マレーシア政府派遣留学生各1名を含む。

※志願倍率・実質倍率の算出方法はそれぞれ右記の通りである。（志願倍率＝志願者数／募集人員）（実質倍率＝受験者数／合格者数）

令和8年度山梨大学学校推薦型選抜入試結果

〔 学校推薦型選抜Ⅰ 〕

募 集 区 分				募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数	
教育学部	学校教育課程	A	幼児教育コース		2	12	6.0	12	2	6.0	2
			障害児教育コース		4	10	2.5	10	4	2.5	4
			言語教育コース	国語教育系	2	5	2.5	5	2	2.5	2
				英語教育系	2	5	2.5	5	2	2.5	2
			生活社会教育コース	社会科教育系	2	4	2.0	4	2	2.0	2
				家政教育系	3	7	2.3	7	4	1.8	4
			科学教育コース	数学教育系	2	7	3.5	7	2	3.5	2
				理科教育系	2	1	0.5	1	1	1.0	1
				技術教育系	3	5	1.7	5	3	1.7	3
			芸術身体教育コース	音楽教育系	2	2	1.0	2	2	1.0	2
				美術教育系	2	3	1.5	3	2	1.5	2
				保健体育系	4	17	4.3	17	4	4.3	4
		小 計		30	78	2.6	78	30	2.6	30	
		B	生活社会教育コース	家政教育系	1	0	0.0	0	0	0.0	0
			科学教育コース	技術教育系	1	1	1.0	1	1	1.0	1
		小 計		2	1	0.5	1	1	1.0	1	
		C	やまなし小学校教育コース		20	35	1.8	35	20	1.8	20
		小 計		20	35	1.8	35	20	1.8	20	
		教育学部 計				52	114	2.2	114	51	2.2
医学部 看護学科				25	72	2.9	72	25	2.9	25	
工学部	工学科	クリーンエネルギー化学コース		6	5	0.8	5	5	1.0	5	
		応用化学コース		6	15	2.5	15	6	2.5	6	
		土木環境工学コース		10	19	1.9	19	10	1.9	10	
		コンピュータ理工学コース		10	15	1.5	15	10	1.5	10	
		機械工学コース		10	7	0.7	7	7	1.0	7	
		メカトロニクスコース		10	9	0.9	9	7	1.3	7	
		電気電子工学コース		10	10	1.0	9	6	1.5	6	
	工学部 計		62	80	1.3	79	51	1.5	51		
生命環境学部 生命工学科				12	33	2.8	33	12	2.8	12	
合 計				151	299	2.0	298	139	2.1	139	

〔 学校推薦型選抜Ⅱ 〕

募 集 区 分				募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
医学部 医学科（地域枠）				35	81	2.3	42	35	1.2	35

※教育学部学校推薦型選抜Ⅰは(A)教科別推薦入試、(B)専門・総合学科推薦入試、(C)山梨県の小学校教員志望者推薦入試の3つに区分して実施。
 ※志願倍率・実質倍率の算出方法はそれぞれ右記の通りである。(志願倍率＝志願者数/募集人員)(実質倍率＝受験者数/合格者数)

令和8年度山梨大学総合型選抜入試結果

〔 総合型選抜I 〕

募 集 区 分			募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
工 学 部	工 学 科	クリーンエネルギー化学コース	6	13	2.2	13	6	2.2	6
		応用化学コース	6	13	2.2	13	6	2.2	6
		土木環境工学コース	3	9	3.0	9	3	3.0	3
		コンピュータ理工学コース	6	9	1.5	9	6	1.5	6
		機械工学コース	3	9	3.0	9	3	3.0	3
		メカトロニクスコース	3	8	2.7	8	3	2.7	3
		電気電子工学コース	3	7	2.3	7	3	2.3	3
	小 計		30	68	2.3	68	30	2.3	30
合 計		30	68	2.3	68	30	2.3	30	

〔 総合型選抜II 〕

募 集 区 分			募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
工 学 部	工 学 科	クリーンエネルギー化学コース	3	5	1.7	5	3	1.7	3
		応用化学コース	3	10	3.3	10	2	5.0	2
		土木環境工学コース	3	8	2.7	8	0	0.0	0
		コンピュータ理工学コース	12	30	2.5	30	9	3.3	9
		機械工学コース	3	9	3.0	9	0	0.0	0
		メカトロニクスコース	3	6	2.0	6	1	6.0	1
		電気電子工学コース	3	10	3.3	10	4	2.5	4
	小 計		30	78	2.6	78	19	4.1	19
生 命 環 境 学 部	地域食物科学科		2	4	2.0	4	2	2.0	2
	環境科学科		5	6	1.2	6	5	1.2	5
	地域社会システム学科		3	11	3.7	10	3	3.3	3
	観光政策科学特別コース		(2)	(7)	3.5	(6)	(2)	3.0	(2)
	小 計		10	21	2.1	20	10	2.0	10
合 計			40	99	2.5	98	29	3.4	29

※生命環境学部地域社会システム学科観光政策科学特別コースの()は、学科の内数であり、募集人員の内訳は目安である。

※志願倍率・実質倍率の算出方法はそれぞれ右記の通りである。(志願倍率＝志願者数/募集人員)(実質倍率＝受験者数/合格者数)

令和8年度山梨大学一般選抜入試結果

〔 前 期 日 程 〕

募 集 区 分			募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	追加合格者	実質倍率	入学者数
教育学部	学校教育課程	幼児教育コース	3	10	3.3	10	4	-	2.5	4
		障害児教育コース	10	19	1.9	19	11	-	1.7	11
		言語教育コース	6	22	3.7	19	7	-	2.7	7
		生活社会教育コース	6	14	2.3	12	7	-	1.7	7
		科学教育コース	11	36	3.3	32	13	-	2.5	13
		芸術身体教育コース	5	20	4.0	18	6	-	3.0	6
	小 計		41	121	3.0	110	48	-	2.3	48
医学部	医学科		-	-	-	-	-	-	-	-
	看護学科		30	59	2.0	54	33	3	1.5	31
	小 計		30	59	2.0	54	33	3	1.5	31
工学部	工学科	クリーンエネルギー化学コース	18	39	2.2	34	20	-	1.7	19
		応用化学コース	18	41	2.3	37	22	-	1.7	21
		土木環境工学コース	30	83	2.8	82	40	-	2.1	38
		コンピュータ理工学コース	47	111	2.4	104	60	-	1.7	57
		機械工学コース	32	104	3.3	99	47	-	2.1	41
		メカトロニクスコース	29	61	2.1	58	39	-	1.5	34
		電気電子工学コース	29	77	2.7	70	40	-	1.8	38
		総合工学枠	10	34	3.4	34	12	-	2.8	9
	小 計		213	550	2.6	518	280	-	1.9	257
生命環境学部	生命工学科		30	59	2.0	55	35	2	1.5	29
	地域食物科学科		30	128	4.3	115	35	-	3.3	30
	ワイン科学特別コース		(13)	(27)		(24)	(8)	-		(8)
	環境科学科		20	41	2.1	32	23	-	1.4	20
	地域社会システム学科		40	138	3.5	129	47	-	2.7	39
	観光政策科学特別コース		(10)	(38)		(36)	(11)	-		(9)
	小 計		120	366	3.1	331	140	2	2.4	118
合 計			404	1,096	2.7	1,013	501	5	2.0	454

※志願者数・受験者数は第1志望の集計であり、第2・第3志望を含まない。合格者数は第2・第3志望を含む。

※生命環境学部地域食物科学科ワイン科学特別コース及び生命環境学部地域社会システム学科観光政策科学特別コースの()は、それぞれの学科の内数であり、募集人員の内訳は目安である。

※志願倍率・実質倍率の算出方法はそれぞれ右記の通りである。(志願倍率＝志願者数/募集人員)(実質倍率＝受験者数/合格者数)

※医学部看護学科及び生命環境学部生命工学科の実質倍率の算出における合格者数は追加合格者数を含む。

令和8年度山梨大学一般選抜入試結果

〔 後 期 日 程 〕

募 集 区 分			募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	追加合格者	実質倍率	入学者数
教育学部	学校教育課程	幼児教育コース	2	14	7.0	7	2	-	3.5	2
		障害児教育コース	4	43	10.8	18	5	-	3.6	4
		言語教育コース	3	84	28.0	32	4	-	8.0	2
		生活社会教育コース	2	17	8.5	4	2	-	2.0	1
		科学教育コース	3	34	11.3	14	3	-	4.7	3
		芸術身体教育コース	3	40	13.3	16	5	-	3.2	4
	小 計		17	232	13.6	91	21	-	4.3	16
医学部	医学科		90	1,320	14.7	234	90	21	2.1	90
	看護学科		5	90	18.0	21	8	-	2.6	4
	小 計		95	1,410	14.8	255	98	21	2.6	94
工学部	工学科	クリーンエネルギー化学コース	-	-	-	-	-	-	-	-
		応用化学コース	-	-	-	-	-	-	-	-
		土木環境工学コース	-	-	-	-	-	-	-	-
		コンピュータ理工学コース	-	-	-	-	-	-	-	-
		機械工学コース	-	-	-	-	-	-	-	-
		メカトロニクスコース	-	-	-	-	-	-	-	-
		電気電子工学コース	-	-	-	-	-	-	-	-
		総合工学枠	30	171	5.7	56	37	-	1.5	31
	小 計		30	171	5.7	56	37	-	1.5	31
生命環境学部	生命工学科		8	59	7.4	17	11	-	1.5	9
	地域食物科学科		5	68	13.6	23	7	-	3.3	5
		ワイン科学特別コース	-	-	-	-	-	-	-	-
	環境科学科		5	36	7.2	12	6	-	2.0	6
	地域社会システム学科		5	99	19.8	37	6	-	6.2	4
		観光政策科学特別コース	(1)	(31)		(14)	(1)			(1)
	小 計		23	262	11.4	89	30	-	3.0	24
合 計			165	2,075	12.6	491	186	21	2.6	165

※生命環境学部の地域社会システム学科観光政策科学特別コースの()は、学科の内数であり、募集人員の内訳は目安である。

※志願倍率・実質倍率の算出方法はそれぞれ右記の通りである。(志願倍率＝志願者数/募集人員)(実質倍率＝受験者数/合格者数)

※医学部医学科の実質倍率の算出における合格者数は追加合格者数を含む。

令和8年度山梨大学私費外国人留学生入試結果

募 集 区 分			募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
工 学 部	工 学 科	クリーンエネルギー化学コース	若干人	12	12	3	2
		応用化学コース		6	6	2	0
		土木環境工学コース		5	5	3	1
		コンピュータ理工学コース		14	14	2	1
		機械工学コース		19	19	1	0
		メカトロニクスコース		7	7	2	0
		電気電子工学コース		19	19	2	0
		総合工学枠	-	-	-	-	-
	小 計			-	82	82	15
生 命 環 境 学 部	生命工学科		若干人	0	0	0	0
	地域食物科学科			0	0	0	0
		ワイン科学特別コース		-	-	-	-
	環境科学科			2	2	1	0
	地域社会システム学科			2	2	1	1
		観光政策科学特別コース		-	-	-	-
	小 計			-	4	4	2
合 計			-	86	86	17	5

令和8年度山梨大学入学選抜試験実施結果（3年次編入学） 令和8年4月1日 現在

学部	3 年 次		編 入				学	
	学 科 ・ コ ー ス 等	募 集 人 員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者		
工 学 部	クリーンエネルギー化学コース	若干人	2	2	2	0		
	応 用 化 学 コ ー ス	若干人	2	1	1	0		
	土 木 環 境 工 学 コ ー ス	若干人	9	8	3	2		
	コ ン プ ュ ー タ 理 工 学 科	5	15	13	8	2		
	機 械 工 学 コ ー ス	10	12	12	12	5		
	メカトロニクス工学コース	若干人	1	1	1	0		
	電 気 電 子 工 学 コ ー ス	5	21	20	12	9		
	合 計	20	62	57	39	18		

※ 令和8年度教育学部3年次編入学試験は収容定員を充足しているため実施無し。



ページID：124281 更新日：2026年1月21日

知事記者会見（令和8年1月20日火曜日）

防災新館401,402会議室

13時30分から

発表事項

- [扇山付近の林野火災について](#)
- [『長期欠席児童生徒家庭を支えるための家庭環境実態調査』の結果について](#)
- [リターン就職率の調査結果について](#)
- [『Cave deワイン県やまなし』の閉店及び新たな情報発信拠点の設置検討について](#)

発表事項外

- [衆議院の解散について](#)
- [山梨県医師修学資金に関する訴訟について](#)



扇山付近の林野火災について

知事

1月8日に上野原市扇山付近で発生した林野火災ですが、大月市まで延焼し、現在までの焼損面積は約390haとなっております。

本県に残る記録の中で過去最大となる見込みであります。

発生から13日、現場では、県内全ての消防本部が出動し、可能な限りの人員と資機材を投入し、現在も消火活動と住民の安全の確保に取り組んでいます。

県におきましても、発生当初から24時間の連絡体制を敷くなど万全の体制を整えるとともに、市町村との密接な連携の下、収集した情報に基づく空中消火の調整や、資機材の確保など、後方支援に当たっているところであります。

私自身も発災2日目に現地を訪れまして、関係者から直接状況をお伺いしたところであります。

消防本部と緊密に連携して、できるだけ早い対応に努めてきているところであります。

現在の状況ですが、火勢は弱まりつつありますが、火種の燐りによる再燃の懸念が続いていると情報を受けております。

現地におきまして懸命な消火活動が続いているところであります。

これまでに人的被害はなく、現状まで制圧してきた消防関係者の皆様のご尽力に感謝を申し上げたいと思います。

県内の消防本部、消防団、警察、そして自衛隊、さらには群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、岐阜県、横浜市、川崎市に対しまして心から感謝を申し上げます。

また、相模原の市長さんからもお見舞いの言葉をいただいております、ご心配いただいていることに対して感謝を申し上げる次第です。

過日、井上副知事からも申し上げたところですが、県内で、こうした林野火災が起きないように、改めて県民の皆様、そして、本県を訪れる皆様をお願いしたいと思います。

今回の林野火災は人的要因の可能性も考えられているところでございますので、山に入られる方は、どうか、くれぐれも火の取り扱いにはご注意くださいと思います。

火の取り扱いには、当然、喫煙も入りますので、ぜひお控えいただきたいと思います。

また、携帯コンロやバーナーのご使用は、燃えやすい物の近くや強風下で使用することはぜひ避けていただきたいと思います。

細心の注意をお願いしたいと思います。

注意報発令中は、火を使わないことが最も有効な予防策となります。

市街地や農地などにおきましては、林野火災注意報が発令中の場合は、屋外での火の使用はできる限り避けていただきたいと思います。

また、山林付近で煙や炎を見かけた場合は、すぐさま最寄りの消防署または消防本部へご連絡をぜひお願いいたします。

今は上野原、大月で全県あげての懸命な消火作業に取り組んでいるところですが、これがまた別の場所で起こりますと、対応が大変困難になりますので、どうかこの期間、いつも以上に重々火の取り扱いには注意していただくよう切にお願いを申し上げます。

[ページの先頭へ戻る](#)

◆ 『長期欠席児童生徒家庭を支えるための家庭環境実態調査』の結果について



知事

長期欠席児童とご家庭を支えるための実態調査結果が取りまとまりましたのでご報告申し上げます。

長期欠席は、不登校、それから病気、経済的理由に大別されますが、その児童生徒数は年々増加傾向にあります。

全体の約7割を占める不登校の児童生徒は、令和6年度が過去最多となりました。

保護者のケア負担も増加し、離職などの事態を招くケースも見受けられます。

長期欠席の児童生徒とご家庭の状況を的確に把握するため、県独自に実態調査を実施したものでございます。

この調査の結果、ご家庭が望む支援策として、子供が安心して過ごせる居場所の確保と学びの継続、そして学校外支援と在籍学校との連携が強く求められるということがわかりました。

このため、学校内外での支援体制を強化いたしまして、児童生徒本人と家庭のご意向に応じた選択ができるように多面的な支援を推進してまいりたいと思います。

また、昨年度に長期欠席であった児童生徒のうち、今年度も引き続き欠席している児童生徒は約半数に上ります。

また、その要因は多岐にわたっております。

加えまして、ケアに伴い、離職など保護者の雇用にも影響が出ております。

教育機関のみならず、関係機関全体で多様な課題へ対応する必要性を改めて確認したところでございます。

併せまして、調査に加えて行った医療、福祉、心理の専門家との対話では、不登校になる前の予防的な措置の重要性、これが指摘されたところであります。

このため、県といたしましては、不登校予防をはじめとする全庁的な不登校対策を検討してまいります。

今回の調査結果で得られました知見を、関係機関や団体と広く共有し、知恵を出し合って支援を一層充実させていきたいと思っています。

なお、調査の詳細につきましては、後程、担当からご説明させていただきたいと思います。

これを機会にトータルな不登校対策といいますが、不登校を予防し、また不登校になった児童生徒を支え、またご家庭を支え、そしてまた学校に戻る道筋、こういうものをしっかりとトータルに考えていきます。

本当に一人ひとり、大切な山梨県の宝物ですので、その子たちが、100%可能性を引き出せるように、県として総力を挙げていきたいと思っています。

[ページの先頭へ戻る](#)

◆ Uターン就職率の調査結果について



知事

本県独自の調査として行っており、Uターン就職率の最新の結果ですが、昨年3月に県外の大学などを卒業した本県出身の学生のUターン就職率は21.8%となりました。

これは前年と比較しまして4.8%のマイナスとなっています。

このUターン就職率の低下につきましては、都心部など県外企業との賃金格差が大きな要因ではないかと捉えています。

大学の就職担当者に対して聞き取りを行いました、売り手市場や就職活動の早期

化といった社会情勢はあるものの、やはり賃金などの待遇格差を低下の要因に挙げる方が非常に多くいらっしゃいました。

もともとUターン志向があった学生でも、実際に就職活動をしてみると、賃金格差から心変わりをしてしまうケースがいくつか散見されたところでございます。

また、厳しい状況はUターンだけに限られないわけでございます。

本県の転出入のデータを見ますと、20歳から24歳の年齢層におきましては、約1,250人の方々の転出超過となっています。

多くの就職期の若者が、本県から流出している事態というのが深刻度を増していると、このように考えています。

まさに、多くの方々が認識している以上に若い人の山梨県からの離脱というものが、静かに、しかしながら深く進行していると、こう危機感を持つべきと私は思います。

現状、県内企業が人手不足で苦しまれておりますが、このままでは本県の将来を担う人材の確保はますます困難になって参ります。

物価高が進み、将来への不安が増すまさに今、生活の基盤となる賃金はより重視され、若者の行動に大きな影響を既に現在進行形で及ぼしておりますので、このまま都心部と勝負できる賃金水準にならないと、いずれこの山梨県を就職活動の選択肢に入れる若い人は加速度的に減ってくるだろうと、県内全体で危機感を共有しなければならない事態だろうと考えております。

したがって、今回の調査結果からも明らかなように、県民所得の向上、そして賃上げ、これは早急かつ強力に進めていかなければいけない最重要課題でございます。

ぜひ県内企業の皆様にも、この状況を認識していただいて、人材投資、そして賃上げの必要性を改めて皆様と共有していきたいと思います。

本県に愛着を持ち、様々な専門性を身につけた将来を担う若い方々に、一人でも多く、この山梨県に残る、あるいは山梨県で活躍していただくそのためにも、賃金水準の向上をぜひご理解いただき、一丸となって進めて参りたいと思います。



記者

今月末、政労使会議というのが予定されていると聞いておりまして、知事が初めて出席されるということも聞いているのですが、おそらく発言を求められることになると思うのですが、今のUターン就職などのことも含めて、どんなことを訴えになるおつもりなのか、差し支えない範囲で教えていただけたら。



知事

まずは、今申し上げたような賃上げの必要性、最低賃金を含めた賃上げの必要性に関して、しっかり県の意思としてお伝えしたいと思っています。

その上で、繰り返し申し上げておりますが、私どもはオール山梨で取り組んでいかなければならない、つまり、これを例えば企業経営者だけにこの負担を押し付けるつもりはないわけでして、一つは県としてこの賃上げ原資を企業にしっかりと確保していただけるように、これは2月議会も含めて弾込めをしておりますが、この対策についてしっかりとその場でお伝えしていきたいと思います。

また、他方で働く方々に対しても、自動的に賃上げというのはやってくるわけではなくて、これは本来勝ち取るもので、どう勝ち取るかというところはぜひスキルを上げていただき、ご自身の職場の収益の向上にしっかりと貢献していただくことを求めています。

なお、企業経営者に対しては、そうした場合にしっかりと分配してください、こういう話もしていきたいと思います。

昨今の社会経済情勢が不安定な中で、いわゆる上がった収益を内部留保に蓄積するのではなくて、ぜひ頑張った社員に報いてあげてください、分配してください。

これは、長い目で見れば、企業の成長に必ず結び付く、また、そこに対して不安がないように、我々県としてやりますので、このような話をしっかりと伝えていきたいと思っています。



記者

最低賃金の決定の仕組みなどについてもさらに労働行政当局に踏み込んで何かを求めるといったことがありますか。



知事

ここはもう既に労働局とも密接に情報交換しながらやっておりますので、私ども様々な調査結果というのは全て労働局とシェアしていきたいと思います。

労働局もご自身の組織のミッションとして、賃金を上げることだとおっしゃってくださっていますので、同志として最大限協力しながら、初期の目的である賃上げ、最低賃金の引き上げも含めて実現するべく、取り組みを進めていきたいと思います。

[ページの先頭へ戻る](#)

◆ 『Cave deワイン県やまなし』の閉店及び新たな情報発信拠点の設置検討について



知事

「Cave deワイン県やまなし」の取り扱いと、今後のジャパンワインの振興についてご報告いたします。

まず「Cave deワイン県やまなし」ですが、令和2年に「富士の国やまなし館」をリニューアルし、これまで、県産ワインを中心とするアンテナレストランとして、大変多くの方々に親しまれてきました。

開設から20年以上経過しましたので、社会環境が大変大きく変容していることから、今年度、情報発信拠点のあり方について調査研究を進めてきたところであります。

その中で、情報発信拠点は、本県の強みを活かし、テーマを絞って魅力を体験・実感できる施設を県内に設置することが望ましい、さらにはストーリー性のある情報発信、こういうものが求められているということでもあります。

また、ワインを取り巻く環境自体が大きく変化しております。

とりわけ、国産ワイン、つまりジャパンワインに関しましては、取組事業者も増え、品質の向上も大変目覚ましいものとなっています。

山梨県は、質・量ともにジャパンワインのセンターに位置しておりまして、ジャパンワイン全体の振興を図る、こういうミッションも背負っている存在だろうと考えます。

したがって、この使命を果たしていくため、本県は、一昨年、日本ワインサミットを開催し、第2回のワインサミットも来月8日に開催することとなっています。

一方で、山梨県の有するリソースも限られるわけですので、このジャパンワインのセンターとして果たすべき役割、ミッションを十全に果たしていくために、この度、資源の配分をリバランスいたしまして、「Cave deワイン県やまなし」に関しましては、3月下旬をもって営業終了し、今後は、このジャパンワインの文化、そして、魅力を世界に広げていくための取組に、持てる資源を重点投資していきたいと考えています。

具体的には、ジャパンワインの象徴となる、例えばワインミュージアムのような情報発信拠点の県内設置について検討を進めていくことにしたいと思えます。

なお、これまで「Cave deワイン県やまなし」を運営していただきました田崎真也さんには、この場をお借りして、改めて感謝を申し上げますとともに、来月の日本ワインサミットにおきましては、実行委員会会長にご就任をいただいておりますので、今後も引き続き、日本ワインの振興について山梨県をご指導いただきたいと考えています。

残り僅かな期間とはなりますが、ぜひ機会があれば、「Cave deワイン県やまなし」に最後、足をお運びいただければありがたいと思います。

[ページの先頭へ戻る](#)

◆ 衆議院の解散について



記者

昨日、高市早苗首相が衆議院の解散を表明しまして、27日、もう少しで公示となります。

まず一自治体の行政のトップとして、この時期での衆議院の解散というものを、どう受け止めていらっしゃるか、公務の立場で伺えればと思います。



知事

まず、行政の立場から申し上げますと、解散そのものについては総理の専権事項とされています。

これについては何らか申し上げことは控えたいとは思いますが、まさに行政の立場から言いますと、この極めて短期の間で、選挙事務をやらないといけなわけですので、ここに携わる市町村や県の職員の皆さんは、もうやるしかないで頑張ってください。

ここについては、何がしかバックアップできることがあれば、しっかり私どもとして支えていきたいと、それが一つ。

また、ぜひ選挙が終わった後、速やかに予算に関する議論、あるいは関連法案も含めて、議論を進めていただきたいと思います。

昨年暮れに国の方から経済対策を打って、補正予算をやるのだから、県としても年度内にできる限りのことをやってくれと、我々はそういう要請も受けている最中の話ですので。

我々はそれに向けて、今、突っ走っておりますが、国においても、当然、後にキャッチアップはしていただきたいと思います。

 記者

関連して、今度、政務のお立場で、知事は自民党籍をお持ちですが、特定の陣営の選挙応援に入るとか、そういった公示日以降の知事の政務活動、選挙に対してどう対応を取るか、または取らないとか、その見通しを伺えればと思います。

 知事

正直申し上げると、今まさに申し上げました2月議会に向けて県の本予算の編成、あるいは2月補正の編成で、賃金の引き上げに向けての対応も含めて、私の立場でやるべきことは山積していて、かなりギリギリに予定を突っ込んでいるものですから、この時期はどれも忙しいわけです。

最高度に忙しいタイミングになってまいりますので、私の立場としては、まず公務優先。

県として、まさに賃上げに向けての対応を待ち望んでいらっしゃる皆さんに対する責任を果たすこと、あるいはその他、来年度予算に向けて、様々な事業展開について多くの期待を持っている県民の皆さんに対する責務を果たすことが最優先であって、空いた時間があればですけども、その時に考えたいと思います。

 記者

先ほど知事のお話では、空いた時間が出たら考えるっていうことだったので、それは空いた時間ができたら真っ先に駆けつけようというのと比べると、それほど積極的にやるのではないよという、そういう受け止めをしていいでしょうか。

 知事

多くの皆さんも困惑していると思いますが、色々と構図が変わったり、公約も色々入り組んだりしているので、どう向き合うか、まず頭を整理しないといけないと思っています。

 記者

あと先ほど解散については、直接言及するようなことは避けたいというお話でしたが、総理の専権事項だということはもちろんなのですが、記者会見で高市総理がおっしゃっていたいわゆる解散の大義。これについては、知事は納得できるものであったというふうに受け止めてらっしゃいますか。

 知事

そこも含めてコメントは差し控えたいと思っています。

 記者

選挙に臨むにあたって、県内の有権者に対して、どういうことを重視して投票に臨んでほしいというようなメッセージがありましたらお願いします。

 知事

まさに論点は多岐にわたると思います。

国際関係をどうするのかというのも一つ大きな判断の要素だと思います。

他方で、私の立場からすると、ぜひこの物価高に対してどう向き合っていくのかと。

そこで出している答えというものが、本当に今後、中長期にわたってこの物価高を乗り越えるためになるのかどうか。

今、示されている各政党の答えが、それに対する完全な答えになるかどうかは、先ほど申し上げたとおり、これから勉強しなければいけないですけど。

ただ、ぜひこの総選挙をきっかけに、やはりそこは国民的な議論になったらいいと思いますので、各地に候補者の方々が行かれて、また話を聞かれる機会や対話をされる機会があると思いますが、ぜひそんな中で、この物価高、インフレを乗り越えていくためにどうすることが必要なのかを、ご議論いただきたいなと思います。

記者

今回の衆院選では、中道改革連合という新党が結成されるという動きもありましたけれど、そんな中、何が中道かという点が議論を呼んだりしていますけど、新党という存在をどのように受け止められているか、知事のお考えをお願いします。

知事

先ほど申し上げたとおりコメントはお控えいたします。

[ページの先頭へ戻る](#)

◆ 山梨県医師修学資金に関する訴訟について

記者

先日、副知事から発表がありました地域枠の判決が本日出まして、違約金の条項の差し止めを認めたという判決が出ました。

それに対する受け止めに教えてください。

知事

まだ判決の詳細については手に入れて分析をしていないのですが、基本的に県の主張が認められなかったと報告を受けています。

これ自体、大変残念なことではありますが、県の地域枠については、この前、井上

副知事からもご報告いたしましたが、見直すべき点はもちろんあったということで、ここは速やかに見直すことを前提に、当然見直すのですけれど、ただ違約金に関しては話が別だと思っています。

この違約金の目的は、地域医療に貢献する意思のない人物が、その他の地域医療の志に燃える志願者を押しのけて地域枠を取って、しかも自己の利益を図るために、地域枠制度を利用したというふうに私達は捉えています。

多分そういうことだと思います。

当然、地域枠で育てたドクターが地域で活躍していることを前提に、様々な医療体制というものを構築するわけですし、もしここに穴が開いてしまった場合、医療というのはもう今日明日の話ですから、私達は再調達していかないといけない。

再調達と言いはる変ですけども、他のところから、その穴を埋めないといけないわけです。

つまり、ここに莫大な再調達コストがかかってくる。

こういう事態を私はぜひ認識していただきたいと思います。

他の医学部、他の枠を受けるのは県として何も言うつもりはありません。

ぜひそこで学んでいただいて、美容外科・皮膚科でも好きな道を選んでいただければいいのですが、ただ、この地域枠だけは税金で運営し、まさに地域医療のために、地域医療を支えるために設けている制度です。

地域医療を支えることによって、県民の皆さんの健康と命を守るための制度なのです。

そこを軽々に扱っていただいたら、はっきり言って困る。

この穴埋めは、まさに税金で埋めざるを得ないわけですから、それに対して何がしかの防止する措置、これは現状で考えても違約金しかないわけですが、この違約金という制度を取っ払ってしまったら、どうするのだということなのです。

どうやって県民の命を守っていくのだと。

根本的には、国の施策の問題なのかもしれませんが、今の国の施策を前提とする上で、我々が考えられる措置というのは、違約金で思いとどまってもらうしかない。

こういう重要な問題意識を持っておりますので、県としては上級審で徹底的に議論していきたいと思っています。

記者

先日発表がありました条件の見直しをした上で、それをもって控訴といいますか、裁判で戦うという認識で間違いないでしょうか。



そうです。

確かにこれまでの県のやり方が頑なだったと、それは私も担当部局と議論して、それはやはりおかしいと。

途中で中断するのに、それぞれ様々な事情があるわけですし、そもそも県でケアラー支援やいろんなことをやっているわけですから、そういうものにはよくよく理解して、柔軟に対応する。

これをやらないのは、むしろ我々が改めるべきだと。

真摯に振り返って正すべきことはしっかり正していく。

ただし、繰り返しになりますが、違約金だけは話は別だと。

これだけは別だと。

これは、いわば再調達コストであるので、地域医療に必要なドクターの数を揃えるために必要なものであり、尚且つ資金というものは税金で再調達しないといけないわけですから、ここだけは、私は全く話は別だと思います。

[ページの先頭へ戻る](#)

このページに関するお問い合わせ先

[山梨県高度政策推進局広聴広報グループ](#)
住所：〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1
電話番号：055（223）1336 ファクス番号：055（223）1331